



「高松から世界へ」 本当は身近なパラリンピックの世界

U40 桑村 美奈子



本当は身近なパラリンピック

オリンピック・パラリンピックが 2020年に開催されるにあたり、チケットの抽選販売や、テスト大会など、開催の機運も高まってきました。開催地は東京ですが、地方はホストタウンなどで大会を支えています。

高松は、台湾パラの陸上選手のホストタウンになっていたり、2018年9月には「第29回日本パラ陸上競技選手権大会」、2019年6月には「中国・四国パラ陸上競技大会」を開催しています。今、まさに高松はパラスポーツの拠点の 1つとしてアクションしていることは間違いありません。

香川から2020パラリンピックには現在5名の選手の候補になっており、より身近な視点からパラリンピックを盛り上げていきましょう！

今、どんな風に関わっているの？

【現在パラリンピック候補になっている選手】

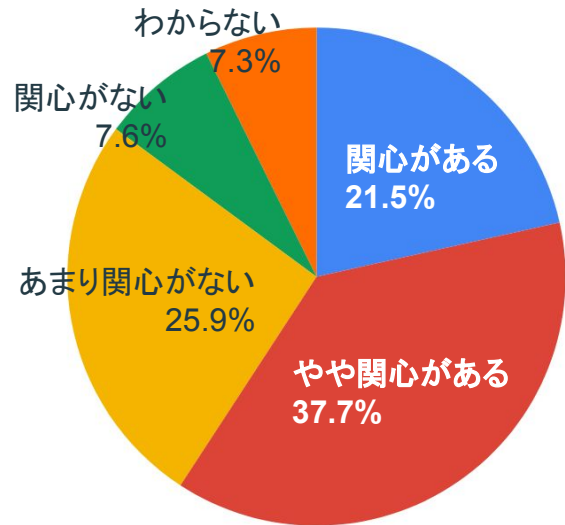
- やり投げ: 田中司(高松市)
- 車いすフェンシング: 阿部知里(高松市)
- 水泳: 荒井由真(まんのう町)
- カヌー: 今井航一(坂出市)
- 卓球: 皆見信博(三豊市)

【県内のホストタウン】

- 台湾パラ陸上(高松市)
- ハンガリーカヌー(坂出市)
- クロアチア陸上(丸亀市)

なぜ身近ではないの？

障がい者スポーツの関心度(平成30年9月)



【障がい者スポーツに関心がない理由ベスト3】

- 1位 身近に障害者スポーツに関わっている人がいないから
- 2位 どんな選手がいるか知らないから
- 3位 どんな競技があるか知らないから

出典:「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」
(平成30年9月実施)※一部改変

興味がある人は約6割、選手のことや競技を理解すれば興味は深まるのではないか。

こうしてみよう！

1. 広報たかまつを活用してパラリンピックを紹介する

市民が目を通す広報たかまつを活用し、パラアスリートの紹介や、競技の紹介をすることで理解を深める。

2. パラリンピックまでの連載

ただ一回だけではなく、パラリンピックまでの4回くらいまでの連載を企画。

3. 作成した広報誌はツールとしても活用

作成した広報誌は障がい者スポーツに関わるイベントでも配布。

手に取った人にしてほしいアクション

1. とにかくパラリンピックを見て応援してほしい！

とにかく見て、応援して、体感してください！

2. 選手を通して競技を身近に感じてほしい。

是非、地元から出場している選手を全力で応援してください。すでにあなたも関係者です。

3. 「おもしろかった」から「おもしろいよ」に。

ぜひ見て「おもしろかった」「興味がわいた」「関心を持った」という気持ちになったらお友達や家族に伝えてみてください。

Thank you for your attention!
We can't wait for the Paralympic Games!!

